

1 国（文科省）の方針

「生きる力」確かな学力 「育成すべき資質・能力」を育む

2 静岡県の方針

「有徳の人」の育成 社会給がかりで取り組む教育

3 御前崎市の方針

「郷土を愛し、未来をつくる子」

①生きていく力の基礎の育成②変化の激しい社会を生き抜くための資質・能力の育成③可能性に挑戦できる教育環境の整備④心と体を支える安全で魅力ある学校給食の提供



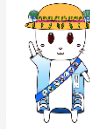
白鳥の像

学校経営方針 安心安全 人権尊重

学校経営目標 5つの「きょういく」
今日育 教育 共育 郷育（環）境育

学校教育目標 「自ら学ぶ人」

白小公認キャラ
しろなみさん



保護者・地域の願い
・安心安全で楽しく通う学校
・確かな学力の定着
・思いやりなど人間関係の醸成
・自ら行動する主体性の育成
・地域の活性化

児童の実態
○素直さ、優しさ、協調性、強靭性
○行事・はばたきに意欲的・協力的
○仲間と活動できる協調性・協力性
△受け身で人任せな面がある
△「わかってもらおう」「わかろう」という他者意識が低い

重点目標 やってみよう 自分から素敵な「あさしおごはん」 ↓ かかやきカード

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	達成目標
学期	1 学期				2 学期				3 学期				達成目標
生徒指導	ルールを守り、いごちのよい学級学校づくり ・学級での居場所をつくる ・「みんなの約束」「あさごはん」「学習ルール」を守る ・自他のかかやき（よさ）を見つける 「認め合える温かな」ボイスシャワー」を教師も子どもも年間を通して実施 「人間関係作りプログラム」の実施				ゴールをめざしてやってみよう ・目指す姿を共有し、授業や学年、学級行事を通して、主体的な活動を引き出す ・学級の仲間を大切に思い、温かく受け入れられる雰囲気をつくる 年間を通して人間関係づくりの基礎的な力を身につけていく				成長の自覚と次へのステップアップ ・次の学年をイメージして、それに向けての一步を踏み出す ・成長を支えてくれた人・場所・物に感謝の気持ちを表現する 成長の変容を引き継ぐ				4段階でのA評価
学びづくり	対話の仕方を身に付けよう ・対話（つなげる・深める）の仕方を知る ・聞く、話すの基本を身につける ・自分の考えをもつ				対話の仕方を充実させよう ・対話（友達に発言につなげる・自分の考えを深める）を充実させていく				対話を通して自分たちで課題を解決しよう ・対話（友達に発言につなげる・自分の考えを深める）を通して、自分たちで課題を解決していく				学校は楽しい 70% 授業がわかる 60%
校内研修	研究主題 子供自身が学びを実感する授業 ～教師が子供の学びをコーディネートする授業～ (1)単元構想 ・「何かができるようになるのか」の明確化 ・単元を貫く「見方・考え方」 ・縦と横のつながりを意識 ・単元のどこで何を評価 (2)問題と評価の一体化 ・授業における評価の明確化 ・対話活動の質を高める「見方・考え方」 ・はばたき学習（学級総合）の年間計画作成 ・国語科の授業研究（全教員の授業公開） ・学年部単位での研修推進 ・外部講師研習												信頼できる先生がいる 75%
仲間づくり	「かかやき見つけ」で自分にも仲間にも自信をつける（運営委員会は学校かかやきを増やすために活動） やってみよう 自分から素敵な「あさしおごはん」（あさしおごはん委員会を中心に） ・一人一人の がんばりを認め合おう （安心して活動できる学級づくり）かかやきカードの習慣化（週一） 「かかやきカード」を書いた子が認められる環境 ・「はい」の返事 ・みんなできちんと「あいさつ」 ・自分でやってみよう、仲間と一緒にやってみよう（努力しようと思えるように） クラスの頑張りを全校発信 「かかやき賞」の掲示、放送 ・やってみよう、自分から素敵な「あさしおごはん」 ・自分の良さに気づき、自信をもって次年度へつなげる ・「ありがとう」の気持ちを表そう クラスの仲間、支えてくれた人々												白羽小の教育に満足 60%
主要行事	・始業式 ・入学式	・遠足	・浜の子運動会	・終業式	・始業式 授業		・野外学習	・修学旅行	・浜の子発表会	・始業式	・六送会	・修了式 ・卒業式	家庭や地域での挨拶 60%
教育方針 ① 授業で ② 学年・学級経営で ③ 行事、活動で 子どもの自信(自己肯定感)を育てる													

信頼される頼もしい職員集団となるための行動指針

- 【安心安全】** 危機管理、危険予知で学校への信頼を教育活動の安心安全を常に保ちます。
- 【人権尊重】** 認め合える温かなボイスシャワーを注ぎ、愛情いっぱいに関わりをします。
- 【信頼関係】** 子どもの居場所となり、活動のエネルギー源となる学年学級づくりをします。
- 【自己研鑽】** 学びの実感がある授業づくりに向け、絶えず自己研鑽をします。
- 【責任協働】** 責任感と協働性を持ち、組織の一員として行動し、白羽小力を高めます。
- 【業務改善】** 小さなエネルギーで大きな効果を生む業務の改善を図ります。
- 【適正服務】** 子どもの手本となり、保護者・地域の信頼となる適正な服務・勤務に努めます。

- ①タイムカードで勤務状況の把握
- ②支援員の効果的配置と活用
- ③ICTの効果的な導入と活用
- ④見通しを持った業務の運行
- ⑤できることから改善・削減